

津久見市

不登校「未然防止・児童生徒支援」アクションプラン

すべての教師が子どもによりそい

絆をつなぐ支援者に！

～不登校未然防止と組織的な支援に向けて～



津久見市教育委員会

1. 津久見市の不登校の現状と課題

不登校児童生徒数・出現率の推移[表1]

小学校					中学校					小・中学校全体				
年度	不登校(人)	出現率(%)			年度	不登校(人)	出現率(%)			年度	不登校(人)	出現率(%)		
		市	県	全国			市	県	全国			市	県	全国
H27	2	0.26			H27	12	3.07			H27	14	1.22		
H26	2	0.25	0.46	0.39	H26	23	5.83	3.13	2.76	H26	25	2.09	1.37	1.21
H25	1	0.12	0.37	0.36	H25	21	4.65	3.27	2.69	H25	22	1.75	1.36	1.17

津久見市学年別不登校児童生徒数の推移[表2]

	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年	小中合計
H27	0	1	0	0	4	8	13
H26	1	0	0	4	8	11	24
H25	1	0	0	3	8	10	22
H24	0	0	0	5	6	4	15
H23	0	0	2	1	2	5	10

増加から一転減少へ！

○津久見市の不登校生数は、平成26年度まで増加傾向にありましたが、平成27年度には大きく減少に転じました。これは、各校の不登校対策の取り組みと地域不登校防止推進教員の取り組みが進み新たな不登校生を出していないことと、中学校卒業による自然減少の二つが要因と考えられます。つまり、不登校生の全体数は減少したものの、不登校状態が継続している児童生徒は依然として多いということが言えます。また、その他にも「朝登校をしぶる子」や「不登校につながる可能性のある兆候が見られる子」が数名いる現状もあります。学校復帰や「居場所」づくり等不登校生の支援はもちろん、不登校未然防止の取り組みに津久見市全教職員で努力していく必要があります。



「小6から中1」・「中1から中2」の2つのギャップ！

○津久見市の不登校生は、「小6から中1」・「中1から中2」の間で大きく増加しています。中学校の時期に大きな壁があることがわかります。また、その不登校傾向が小学校中・高学年より徐々に何らかの兆候を示す傾向があることも指摘されています。「病気」連絡で欠席していても、一見何事もなく元気に登校していても、月に何日か欠席をしたり、同じ曜日の欠席が見られるなどは、何らかの課題を抱えている可能性があります。不登校につながる可能性のサインとしてとらえ、早期に課題解決のための支援を行う必要があります。中学校入学後は、小中の連携をさらに密にして継続した支援をしていくことが大切です。そして、何より一人一人にとって居心地のよい、仲間とつながる絆を感じ合うことができる学級集団づくりを行うことが求められています。

2. 「未然防止」取り組みの推進

すべての児童生徒が安心して日々の学校生活を送ることができるようにすることが、不登校未然防止につながる第一歩です。一人一人が「居場所」を実感でき、仲間とつながる絆を感じ合うことができる集団づくり、魅力ある学校づくりを行うことは、不登校未然防止の根幹です。

(1) 「絆」と「居場所」を意識した「魅力ある学校づくり・学級づくり」の推進

○児童生徒が自ら主体的に取り組む共同的な活動により、「絆」を感じ合い、仲間とのつながりを築いていく取組の推進

○児童生徒が安心して過ごすことのできる、自己存在感・連帯感や充実感を感じられる「居場所」を提供していく取組の推進

- ◆全校による絆づくり⇒運動会（体育祭）、文化祭、児童会・生徒会活動等
- ◆先輩・後輩の絆づくり⇒短学活（朝・帰りの会）や朝自習見学、合唱コンクール練習参観、集団登校、たてわり活動、集会活動等
- ◆絆強き集団づくり⇒学級開き・学期開き・授業開きにおける目指す姿の共有・価値観の共有、授業（授業における仲間との関わり合いにもこだわる）、学校行事の取り組みを通じた教師の仕掛け、児童会・生徒会行事の活性化等
[Q-U調査、構成的グループエンカウンター等の活用]
- ◆相談活動の充実⇒生活ノート、教育相談、スクールカウンセラーの活用

(2) 「新大分スタンダード」に基づく、生徒指導の3機能を意識した授業改善

○児童生徒の「できた」「わかった」「楽しい」の声が聞こえる授業づくりに、すべての教職員で組織的に取り組む。

①自己決定の場を与える授業 (こんな授業です)	②自己存在感を与える授業 (こんな授業です)	③共感的人間関係を育む授業 (こんな授業です)	すべての子どもに 「出番」のある授業
自ら課題を見つけそれを追求し、 自ら考え、判断し、表現する授業 (具体的には…)	一人ひとりに学ぶ楽しさや成就感 を味わわせることができる授業 (具体的には…)	互いに認め合い、学び合うことが できる授業 (具体的には…)	
◆一人ひとりの思考を大切に する時間を確保し、思考場面 や観察場面で考えたり、観 たりする観点を示します。 ◆自分の考えや思考過程が分 かるようなノートの取り方を 指導します。	◆授業に意欲を見せない子 どもや学業の振るわない子 どもにも、学習に向かえる 手立て・配慮をします。 ◆子どもの実態を把握し、 授業のどの場面で子どもを 活かすのか工夫します。	◆子ども一人ひとりを受け 止め、認めながら指導しま す。 ◆教師主導から脱し、子 どもの主体的な思考や活 動を大切に、互いに関わり 合い、学び合う授業を進 めます。	

(3) 校内不登校対策委員会の活性化

○未然防止及び不登校生の「個に応じた対策計画」を組織で考え作成することが、多くの児童生徒への不登校未然防止につながります。

○「不登校対策計画」作成して短期PDCAサイクルでマネジメントすることで、不登校未然防止に努めます。

(4) 「つくみっ子あったかハート1・2・3」の取組

1. 欠席1日目：電話連絡（担任による状況確認・励まし等） ※仲間たちの日課連絡・メッセージ・訪問等
2. 欠席2日以上連続：家庭訪問（担任による状況確認・励まし等）
3. 欠席3日以上連続：家庭訪問（子どもの思いへの寄り添い・励まし・不安の解消等）、組織対応開始

3. 「初期対応」取り組みの推進

日頃から、児童生徒の様子や言動、その変化などに細かく気を配り、未然防止や早期発見の観点から、予兆やサインを見逃さないよう高くアンテナを保ち、情報交換による情報の共有を図りながら、関係機関とも連携した組織的な取組を推進していくことが重要です。

(1) 早期発見

○子どもの様子や変化の「観取り」(みとり)

- ◆複数の目で「観る」、チームで「観る」。(学年部・不登校対策委員会・SC)
- ◆「不登校傾向チェックリスト」の活用⇒「気づき」の力・感性の共有
- ◆市共通フォルダー「気になるあの子の今日の様子」に登録⇒地域不登校防止推進教員と連携

「不登校傾向チェックリスト」

- ☐ 表情が暗い
- ☐ 遅刻が増えた
- ☐ 早退が増えた
- ☐ 保健室の利用が増えた
- ☐ 休み時間ひとりで頻繁に職員室に来室
- ☐ 休み時間ひとりでいることが多い
- ☐ 授業中辛そうである
- ☐ 体調の不調をよく訴える
- ☐ 家庭環境に変化があった
- ☐ 兄弟姉妹の欠席が増加
- ☐ 友人関係でトラブルがあった
- ☐ 教師を避けるようになった

『気づきの力』

担任一人の「観る」・「気づく」・「感じる」力よりも、チームの力はさらに大きな『気づきの力』となります。また、教師一人一人の『気づきの力』の不足をフォローするために、「不登校傾向チェックリスト」の活用が有効です。定期的に、組織的にチェックする取り組みを進めていきましょう。

『気になるあの子の今日の様子』

毎日リアルタイムで「気になるあの子」の今日の登校状況の把握を関係者で共有し、地域不登校防止推進教員を核として連携していきます。

○相談活動の充実

- ◆生活ノート等の活用⇒担任と子どもをつなぐ。子どもの思いに「よりそう」やり取りを。
- ◆班ノート等の活用⇒子どもを仲間とつなぐ。安心できる心の居場所の一つとして。
- ◆スクールカウンセラーの活用⇒可能な限り1学期の早い時期に一人ひとりと面談。

(中学1年生は必ず全員実施する。)

(2) 早期対応

○「つくみっ子あったかハート1・2・3」の徹底

- ◆「子どもの思いに寄り添う」ために電話連絡、家庭訪問。
 - ⇒決してマニュアルとして動かない。
 - ⇒マニュアルではなく、本気の思いと、実感のある言葉でなくてはならない。
- ◆「学校に行きたくない」は、⇒「話を最後まで聴いてほしい」
 - ⇒子どもの思い、その存在をすべて認めて受け止めながら、まずは必ず『聴く』。

津久見市「欠席日数による不登校初期対応フロー」

【初期対応準備】

学年始
休業

前年度までの欠席・遅刻・早退等の状況把握（校内引き継ぎシート・小中連絡会記録）

「不登校相当」・「準不登校」の判断・情報共有（表1を基準に）

「不登校経験あり」群・「不登校経験なし」群の分類（表2を基準に）

表1：「不登校」・「不登校傾向」の基準

表 1	区分	各学年の状況
	「不登校相当」	欠席日数+保健室等登校日数+（遅刻早退日数÷2）=30日以上
	「準不登校」	欠席日数+保健室等登校日数+（遅刻早退日数÷2）=15日以上30日未満

表2：欠席状況の分類とその基準

表 2	区分	前年度までの状況
	「不登校経験あり」群	・前年度までに一度でも「※不登校」「不登校相当」に該当した者 ・複数年数「準不登校」に該当した者（1年生は単年）
	「不登校経験なし」群	・前年度までに「不登校相当」「準不登校」のいずれにも該当しなかった者

「※不登校」：欠席日数30以上 表1・表2は国立教育政策研究所作成基準による

対人関係への配慮（①学級編成の工夫②学級開きの工夫③関係機関等からの情報）

【初期対応開始】

学年始
～

欠席日数による対応（明らかな病気・けがを除く）

欠席日数	「不登校経験あり」群	「不登校経験なし」群
1日目	家庭訪問	電話連絡
2日目		家庭訪問
3日目	校内支援チーム発足	
5日目及び断続的な欠席が7日目	仲間たちの日課連絡訪問等	校内支援チーム発足 仲間たちの日課連絡訪問等

組織的な対応

不登校対策委員会
（ケース会議）

関係機関（ネロリ・児童相談所・
福祉事務所・幹部交番等）

欠席日数が連続7日（課業日のみ）になるなど長期に欠席が続いた場合【様式1】を市教委に提出⇒【様式1】の情報を市教委・地域不登校防止推進教員・ネロリで共有

欠席
1日目
2日目
3日目
5日目

欠席
連続
7日目

4. 「学校復帰支援」・「自立支援」の取り組みの推進

(1) 校内不登校対策委員会の取組

- 不登校生の「個に応じた対策計画」を作成し、組織として支援の取り組みを推進する。
- 地域不登校防止推進教員と連携

(2) 地域不登校防止推進教員の活用

- 校内不登校対策委員会への地域不登校防止推進教員の参加。
- 家庭訪問
- 不登校生や別室登校生に対する学習支援
- 保護者支援



(3) 適応指導教室「ネロリ」との連携

- 子どもの大切な「居場所」として活用。
- 自立支援の場として活用。
- 子どもと保護者の相談できる場として。



適応指導教室「ネロリ」

津久見市教育委員会では、不登校で悩む子どもや保護者の相談の場として適応指導教室「ネロリ」を開設しています。不登校の子どもに対する学習支援や生活支援・自立支援など、子どもが学校へ行く自信を取り戻すための支援を行っています。

【活動内容】

- ◆登校できない子どもへの活動の場を提供
- ◆家庭訪問や学校訪問等の相談活動
- ◆他の専門機関、相談機関と連携した支援
- ◆電話相談、来室相談

【活動日】

- 火・水・木
- 9：00～12：00
(自主活動・学習活動)
- 午後：家庭・学校訪問

(4) 不登校を子どもの立場で理解する。

◆「学校とは『牛乳』である。」 (不登校を考える親の会「星の会」より)

- ⇒飲んでいくことで成長する。多くの子どもにとって学校はそういう場。
- ⇒しかし、中にはアレルギーなど合わない症状の出る子どももいる。
- ⇒このことへの理解から子どもによりそっていきましょう。

◆「感情」と「行動」を区別⇒「怠けている」「わがまま」と目に映る子ども

- ⇒本当は朝が来るのが怖い⇒朝の苦しい時間が来ないように、夜中に起きている。

◆「よりそう」が、理解のあるふりであってはならない。

- ⇒理解があるふり（マニュアルのごとくの言葉・姿勢）
- ⇒子どもは戸惑う。大人を信頼できなくなる。荒れる。

※子どもによりそっているのか、ただ自分が楽になりたいからなのか、解決を急いでいるからなのか。言葉から心が子どもには伝わっていくもの。 「易しさ」ではなく、「優しさ」

5. 地域不登校防止推進教員の活用

(1) 拠点校での取組

- 不登校対策計画の立案（重点取組・取組指標）
- 校内不登校対策委員会の実施
- 不登校対応に関する校内研修の実施（Q－U調査活用方法・仲間づくり・初期対応等）
- 学級担任との連携（子どもの様子や困りの相談等）
- 登校支援・別室登校生の対応（朝の迎え・放課後対応・学習支援等）
- 家庭訪問
- 保護者との相談活動
- 適応指導教室「ネロリ」との連携
- スクールカウンセラーとの連携



(2) 津久見市全体での取組

- 『気になるあの子の今日の様子』への出欠の記入と傾向の把握
- 学校訪問（各校管理職・担任・養護教諭等との情報交換及び今後の対応の相談）
- 不登校生への家庭訪問（担任と密に連携をしながら）
- 不登校生や別室登校生への学習支援
- 不登校生の保護者との相談活動
- 適応指導教室「ネロリ」との連携（相談員と密に連携をしながら支援）
- 要保護児童対策地域協議会（実務者会議）への出席・関係機関との連携
- 津久見市生徒指導主任会への参加・不登校対応に関する研修の実施
- 津久見市生徒指導連絡協議会における現状報告及び不登校対応の取組の報告
- 津久見市不登校対策会議におけるQ－U調査活用方法の講義
- 各校校内研修に参加（Q－U調査活用方法の助言・仲間づくり等の研修への支援）
- スクールカウンセラー連絡協議会への出席・連携
- 福祉事務所との情報交換・連携の打ち合わせ
- 教育委員会での業務報告及び情報共有
- 支援記録ノートの作成（つながりのある支援体制の構築へ）



	午 前	午 後
月	【拠点校】 担当教科授業・登校支援・別室登校対応	【拠点校】 家庭訪問・別室登校対応・放課後学習支援
火	【拠点校】 担当教科授業・登校支援・別室登校対応	【拠点校】 家庭訪問・別室登校対応・放課後学習支援
水	【適応指導教室「ネロリ」での対応】 学校訪問（情報交換）・家庭訪問等	【校内研修】（拠点校及び市内各校） 研修への参加・助言・資料提供・情報交換
木	【拠点校】 担当教科授業・登校支援・別室登校対応	【拠点校】 市内各校の家庭訪問・別室登校対応
金	【教育委員会】業務報告及び情報共有 【福祉事務所】情報交換・連携打ち合わせ	【学校訪問】情報交換・対応相談 【家庭訪問】拠点校・市内各校

【『気になるあの子の今日の様子』】



1月																	
日 曜	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
1 金																	
2 土																	
3 日																	
4 月																	
5 火																	
6 水																	
7 木																	
8 金																	
9 土																	
10 日																	
11 月																	
12 火																	
13 水																	
14 木																	
15 金																	
16 土																	
17 日																	
18 月																	
19 火																	
20 水																	
21 木																	
22 金																	
23 土																	
24 日																	
25 月																	
26 火																	
27 水																	
28 木																	
29 金																	
30 土																	
31 日																	

※「気になるあの子」を関係者で共通理解し、氏名がわからないように数字で記入しています。ごく限られた関係者間でのみ数字と氏名を照合する名簿を共有・保管し、個人情報を守ります。

※「○ 朝から登校できた」「△ 遅れて登校できた」「× 終日登校できなかった」「□ いったん登校したが早退した」「● ネロリに登校できた」を、原則その日のうちに各校で記入します。

- 朝から登校できた
- △ 遅れて登校できた
- × 終日登校できなかった
- いったん登校したが早退した
- ネロリに登校できた

※今日のあの子の様子を学級担任とともに共有しましょう。そして、あの子に共に寄り添っていきましょう。
あの子のことを自分以外にも気にしてくれていると、学級担任が思えるような第一歩から始めていきましょう。よろしくお願いします。

【様式1】 つくみっ子欠席連続7日目連絡シート

記入日		平成		年		月		日						
1	学校名				2 報告者職名				報告者氏名					
3	当該児童生徒								4 電話連絡・家庭訪問時の様子					
	学年		組		氏名			性別						
		年		組										
5	欠席日数累計													
	本年度						日							
6	欠席の理由 ※複数選択可								7 項目6のその他の内容					
	友人関係													
	教師との人間関係													
	学業不振													
	遊び・非行													
	無気力													
	不安などの情緒的混乱													
	意図的な拒否													
	保護者の教育に関する考え方・無理解・無関心								8 校内支援チーム構成メンバー					
	家庭の事情													
	その他（項目7にその内容を記述）								管理職		養護教諭		その他	
									生徒指導担当		学年部		その他のメンバー	
									教育相談担当		学級担任			
9	居所不明について								11 備考（その他市教委へ連絡が必要な事項を記入）					
	居所不明でない				居所不明である									
	面談できた				面談できない									
10	今後連携が想定される関係機関 ※複数選択可													
	適応指導教室「ネロリ」													
	津久見市福祉事務所													
	大分県中央児童相談所													
	津久見幹部交番													
	各専門医療機関													
	その他													
	その他の関係機関													